

平成25年 鳥取市政10大ニュース

順位	項 目	説 明
1	鳥取自動車道が待望の全線開通! ・鳥取西ICも開通し、本格的な高速道路ネットワーク時代が到来。	平成25年3月23日に鳥取自動車道(中国横断自動車道姫路鳥取線(佐用～鳥取間))が待望の全線開通。これにより鳥取～大阪間が2時間30分で結ばれ、関西圏・中京圏・北陸などからの観光客が増加し、また多くの企業誘致が実現するなど、地域経済の活性化と交流人口の拡大に大きな効果を生み出している。また、山陰道鳥取西道路(鳥取IC～鳥取西IC間)も12月14日に開通するとともに、山陰近畿自動車道(駈馳山バイパス)の整備も順調に進み、本市は本格的な高速道路時代に入った。
2	全国都市緑化とっとりフェア開催! ・鳥取流緑化スタイル「ナチュラルガーデン」を全国発信。	平成25年9月21日から51日間、「第30回全国都市緑化とっとりフェア」を開催。主会場である湖山池公園には、187,385人が来場。「ナチュラルガーデン」という形で身近な自然を生活空間に取り入れる「鳥取流緑化スタイル」を県内外に発信。10月10日には、秋篠宮殿下・同妃殿下が来県。緑化祭で「ヤマナシ」と「アズキナシ」をお手植えされた。また、鳥取市が市民と協働で取り組んでいるガーデンシティーづくりが、「緑の都市賞(緑のまちづくり部門)」で国土交通大臣賞を受賞した。
3	市庁舎整備に向け、全体構想(素案)を公表 ・パブリックコメントを実施。	市議会「鳥取市庁舎耐震改修等に関する調査特別委員会」は、住民投票で多数となった「現本庁舎の耐震改修及び一部増築案」のままでは実現できないと、昨年12月に最終報告した。これにより、「鳥取市庁舎整備専門家委員会」や市長を本部長とする市庁舎整備推進本部において、改めて市庁舎整備についての調査検討を進めた。その結果、庁舎に求められる機能の実現、長期的な視野に立った費用の抑制、将来のまちづくりなどを総合的に判断の上、「鳥取市庁舎整備 全体構想(素案)」を公表した。
4	来春の鳥取市長選挙に竹内鳥取市長が不出馬を表明! ・残された課題に全力で取り組む決意を明らかに。	竹内市長が平成26年4月13日に執行される鳥取市長選に出馬せず、今季限りで退任することを11月26日に表明した。平成14年の就任以来、3期12年、鳥取市長として市政を運営。残りの任期では他のことに力を費やすのではなく、鳥取市の未来のために市庁舎整備の推進など直面する市政課題の解決に取り組むことが、市長としての使命だとし、任期中は全力で市長としての職責を果たしていくことを明らかにした。
5	三洋電機跡地へ源吉兆庵の進出が決定! ・三洋電機の工場跡地を取得し、企業誘致を展開。誘致企業の第1号決まる。	工業用水や高圧電力など産業基盤が整った三洋電機(株)南吉方工場跡地を企業誘致の受け皿として活用するため、約5.1haの用地を17億8,600万円で取得するとともに、企業誘致を積極的に推進した。その結果、高級和菓子製造の「(株)源吉兆庵」が進出第1号となる立地を決め、11月19日に進出協定書の調印式を行った。近年最大規模となる約43億円の投資が予定され、330人の雇用の創出が計画されている。

平成25年 鳥取市政10大ニュース

順位	項目	説明
6	<p>9月10日を「鳥取市防災の日」に制定！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災を風化させないよう防災の日を制定。平成25年は水害が多発し、大規模な避難勧告を発令。 	<p>H25年は、昭和18年9月10日に鳥取大地震が発生してから70年の節目の年であり、震災の記憶を風化させないよう、この日を「鳥取市防災の日」に制定。市民の防災意識の向上と地域における防災に関する取り組みの推進を図る。また、豪雨が頻発し、特に台風第17号の影響による塩見川と大路川の増水では、約1万5千名を対象とした大規模な避難勧告を発令した。これを機に防災に対する意識がますます高まった。</p>
7	<p>駅前の賑わいづくりが着実に進展！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バード・ハットなどの完成により、新しい駅前の魅力が次々と誕生。 	<p>駅前の賑わいづくりの起爆剤として、平成25年7月7日、市道駅前太平線の約150m区間に開閉式大屋根・芝生広場「バードハット」が完成し、駅周辺の新たな賑わいの創出を実現！また、観光・物産振興、環日本海経済の交流の促進や賑わい創出を図るため「まちパル鳥取」を整備。さらに、鳥取駅南口の利便性の向上などを含めた鳥取駅周辺再生に向けた取り組みを推進中。</p>
8	<p>鳥取市医療看護専門学校（仮称）の誘致が決定！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取駅北口に、大阪滋慶学園の誘致決定。平成27年4月、開校予定。 	<p>地域医療を支える看護師・リハビリ専門職の不足を解消するため、看護師等養成所の誘致開始。平成25年4月に学校法人大阪滋慶学園と基本協定書を締結。現在、平成27年4月の開校を目指し、校舎を建設中。医療看護専門学校の開校は、若者の地元進学・地元就職の道を開き、また、常勤雇用の創出、10億9千万円（開学3年目以降）の経済波及効果、中心市街地の賑わいづくりや公共交通機関の利用促進などへの効果も期待される。</p>
9	<p>「砂の美術館」の来場者が200万人を突破！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期展示から通算200万人。鳥取観光の拠点施設として定着。 	<p>平成25年の鳥取砂丘砂の美術館第6期展示では、「砂で世界旅行・東南アジア編」をテーマとして、東南アジア特有のエキゾチックで神秘的な世界を砂像で展開した。また、テーマである東南アジアの伝統芸能の披露や、年末には鳥取砂丘イリュージョンとタイアップした世界初の砂像による3Dプロジェクションマッピングに挑戦する等の取り組みを行った。来場者は、会期ごとに増加しており、11月には、2006年に第1期をスタートさせて以来、通算来場者200万人を突破した。</p>
10	<p>鳥取空港の5便化が決定！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽田ー鳥取便の発着枠が1便増え、平成26年3月からの5便化が決定。 	<p>国土交通省による「羽田発着枠政策コンテスト」で鳥取ー羽田便が1枠配分され、鳥取空港の5便化が決定。この増便は、平成26年3月30日から当面2年間であるが、平成15年の4便化以来10年間の悲願が実ったもの。5便化により鳥取の空は大きく開かれ、観光客の増加やビジネスでの立地の優位性の向上が期待される。</p>